第1章
市民憲章・市の概要

●豊後大野市市民憲章

＜前文＞

わたしたち豊後大野市民は、恵まれた自然と母なる大野川のもとで多くの歴史的・文化的資源を受け継いできました。このまちの市民であることに大きな誇りと責任を持ち、自然と文化を未来へつなぎ、活力とやすらぎのあるまちづくりのため市民憲章を定めます。

＜本文＞

一、豊かな自然を守り、美しいまちをつくります。
一、健やかな心とからだを育て、明るいまちをつくります。
一、芸術を愛し教養を高め、文化の香るまちをつくります。
一、働くことに喜びを持ち、活力のあるまちをつくります。
一、思いやりの心を大切に、温かいまちをつくります。

（平成18（2006）年4月1日制定）

●市の概要

豊後大野市は、平成17（2005）年3月31日に三重町、清川村、緒方町、朝地町、大野町、千歳村及び犬飼町の5町2村が合併して誕生しました。

本市は、大分県の南部、大野川の中・上流域に位置し、東西約22キロメートル、南北約31キロメートル、総面積は、603.14平方キロメートルであり、県土の9.5%を占めています。

東部は大峠山（おおとうげやま）、佩楯山（はいだてさん）、西部は阿蘇外輪山のすそ野、北部は神角寺（じんかくじ）・鎧ヶ岳（よろいがたけ）、南部は祖母（そぼ）・傾山（かたむきやま）、三国峠（みくにとうげ）により囲まれ、盆地状をなしています。地形的、地理的には必ずしも恵まれてはいませんが、起伏に富み、かつ複雑な地形を活かすとともに、大小の河川を集めて別府湾に注ぐ大野川の豊かな水利があり、県内屈指の畑作地帯を形成しています。また、神角寺・芹川県立自然公園、祖母・傾県立自然公園、祖母・傾国定公園によって囲まれており、有形、無形の地域資源に恵まれた名水・田園・観光のふるさとでもあります。

気候は南海型気候に属し、平地気候と山地気候のほぼ中間にあり、四季を通じておおむね温暖で、一部の山岳地帯を除いては、平坦地の平均気温は15～16℃と極めて農耕に適しており、古くから農業を基幹産業として発展してきました。

人口　30,504人（令和7（2025）年国勢調査速報値）
面積 603.14㎢

最東端	北緯	33°	5′	13″	東経	131°	40′ 44″
最西端	北緯	32°	49′	41″	東経	131°	20′ 49″
最南端	北緯	32°	48′	12″	東経	131°	21′ 54″
最北端	北緯	33°	7′	14″	東経	131°	33′ 18″

●市章（平成17（2005）年8月3日制定）

豊後大野市の豊後と大野の頭文字（英字）の「B と O」を組み合せ、豊かな自然と文化を未来へと継承し、発展するまちの姿を表現しています。赤い中央の太陽は、健康で文化の香るまちの輝く希望を、青の大野川の流れは、人々の協働・共創の和を象徴しています。

※デザインは彦根　正さん（東京都）



●市花「ボタンザクラ」（平成18（2006）年4月1日制定）

バラ科サクラ属サトザクラグループ

ボタンザクラは、ソメイヨシノの花が終わった後、４月下旬頃から開花し始め、2.5 センチ程の薄紅色の八重の花が咲きます。古くから豊後大野市大野町の烏帽子岳浄水寺の庭に咲いていて、花々が重なり合い、一つになって優雅な美しさを放つその姿は、市民に広く親しまれています。



●市木「クヌギ」（平成18（2006）年4月1日制定）

ブナ科コナラ属

クヌギは、豊後大野市において広く分布し、一面の春の新緑・夏の深緑・秋の黄葉と、地域特有の他に誇れる景観を作り出す樹木です。

産業面では、薪炭材としての活用の歴史や、量的・質的に全国有数の椎茸生産地であることからも、その原木として非常に重要な役割を果たしています。

市内全域に分布し、四季を彩るこの樹木は、本市にとって欠かせない存在です。

●市イメージキャラクター

「ヘプタゴン」



- 9 歳の女の子
- 弟である「なばっピー」のことが心配でいつも気にかけているお姉ちゃん
- 「なばっピー」と一緒にいることが多く、1 人では何もできない恥ずかしがり屋さんな一面もある
- 常にかわいい仕草を研究していて、実はアイドルになりたいという夢をひそかに持っている
- 生まれ育った豊後大野の自然や食べ物が大好きで、特に最近は豊後大野市産のピーマンを使った料理にハマっている

「なばっピー」



- 5 歳の男の子
- とにかく元気で、ほっといたらどこにでも飛んでいきそうなため、「ヘプタゴン」に心配ばかりかけている
- 本人はお姉ちゃんを連れて歩いていると思っているが、実は「ヘプタゴン」がいないと元気も半減する
- 家の中にいるよりも外で遊ぶことの方が大好きで、いつも土まみれになっているため、洗濯物が増えて困っている
- 豊後大野市産の椎茸が大好きで目がない